

## 会津若松市立東山小学校

教科名等：道徳  
単元(題材)名：「心のレシーブ」  
学年：第5学年

### 実施状況

- ◇ ねらい・・・互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し合って、助け合おうとする心情を育てる。
- ◇ 授業の流れ
- 導入・・・「握手ゲーム」をした後、学級の男子女子についてどう思っているか発表し合う。
  - 展開・・・① 資料「心のレシーブ」を読んで話し合う。  
(資料)・・・クラス対抗のソフトバレー大会出場に向けて練習する女子二人と男子二人の話である。運動が得意な女子に比べ、運動が苦手な男子。練習してもなかなかうまくいかない良夫に対して不満を持つ陽子の心の動きを考える。しかし、陽子の見えないところで一生懸命練習していた良夫のことを知り、チームが一つになっていく。そんな陽子の心の変化をとらえさせながら、お互いのよさを認め合い、仲間が信頼し合う大切さについて考える。  
② 「5年1組心のサーブ」を行い、男女の協力について考える。
  - 終末・・・心のノート「ともだちっていいよね」を読み、友達のよさについて感じさせる。

### 児童・生徒の感想

- 何か苦手な友達がいても、励まし合って、頑張っていかなければならないと思った。みんなで力を合わせていろんなことをやることがいいと感じた。(男子)
- できなかったことを責めることなく、優しく教えてあげることがよいと思った。一緒に頑張ってやることがとてもよいことだとわかった。男女が協力することはいいことだ。(女子)
- 私もこの話の陽子と同じように友達に強く言いすぎるところがある。授業を通して「男子と女子は分かり合える」ということがわかった。今度から話をする前に、少し考えてから話をしようと思った。(女子)

### 参観者の感想

- 教師の投げかけを真剣に受け止め、自分の考えを持って表現し、お互いに共有しようとする姿がたくさん見られた。また、答えを資料から読み取ることができる発問と想像して考える発問に区別し、意識して問い合わせれば、子どもたちの心はより耕されるであろう。(中学校教師)
- 発達段階で男女の接し方が変わるのは仕方がないが、一人の人間としてお互いを尊重していくことの大切さを改めて感じることができた。(保護者)

### 指導者の感想

思いやりのなさから相手を傷つけるような発言をする反面、男女それぞれによいところも見いだしていることも分かった。授業を通して、資料の登場人物の気持ちに共感させることにより、自分の行動を振り返ったり、今後どのように接していくべきことが必要かを感じさせることができた。多くの児童が、協力することやお互いを思いやることの大切さについて理解できたようである。実践に結びつけられるように支援していきたい。